

其ノ一 龜鑑トスベキ事項

0543

〔其ノ一〕 龜鑑トスベキ事項

目次

一、 堅忍持久克ク企圖ノ秘匿ニ努メ有利ナル戦闘ヲ交ヘタル戦例……………	(一)
二、 機關銃精神ヲ發揚シ衆敵ヲ殆ンド殲滅シタル戦例……………	(三)
三、 一死以テ軍ノ機密保持ヲ完ウセシ戦例……………	(五)
四、(一) 一死以テ警戒ノ任ヲ完ウセシ戦例……………	(七)
四、(二) 自己ノ負傷ヲ秘シ敵匪ノ夜襲ヲ 阻止シ爾後ノ戦闘ヲ有利ナラシメタル戦例……………	(七)
五、 決死兵二名ノ勇敢ナル行動ニ依リ 匪賊ヲ殆ンド殲滅スルヲ得タル戦例……………	(八)
六、 一兵ノ機宜ニ適シタル獨斷 克ク戦闘ヲ有利ナラシメタル戦例……………	(四)

0544

- 七、 敵兵獨斷彈藥ヲ補充シ戰勝ノ端緒ヲ開キタル戰例……………(二六)
- 八、 兵器ノ尊重愛護心ニ徹底セル實例……………(二八)
- 九、 身ニ重傷ヲ負ヒナガラ勇敢ニ
部下ヲ指揮シ敵ヲ擊退セル戰例……………(三〇)
- 十、 彈丸雨中ノ間率先先頭ニ立チテ
突入シ主力ノ突撃ヲ誘起セシメタル戰例……………(三一)
- 十一、 勇敢ナル分隊長ノ行動、克ク部下ノ
士氣ヲ振作シ有利ナル戰鬪ヲ交ヘタル戰例……………(三三)

一、堅忍持久克ク企圖ノ

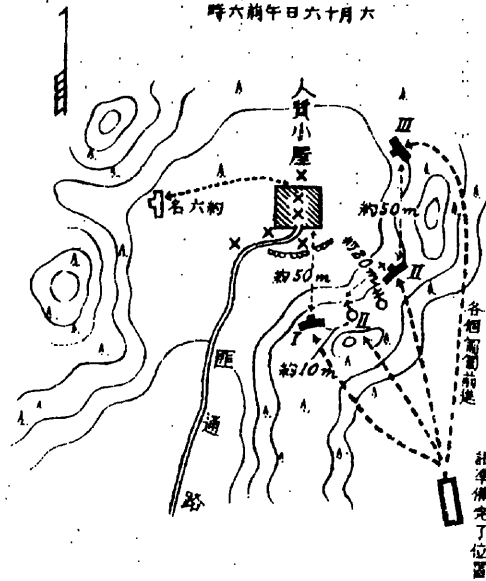
秘匿ニ努メ有利ナル戦闘ヲ交ヘタル戦例

歩兵第三十五聯隊編成ノ游撃隊配屬、歩兵砲小隊ハ六月十五日午後五時三十分、高麗營(小山子北方約六
軒)出發、道案内一、捕虜匪一ヲ先頭ニ小隊長以下二十二名(編成裝備別記ノ通り)連日連夜ノ降雨ヲ衝イ
テ進ム。泥濘膝ヲ没スルノ難路ナリ。殊ニ當夜ニ限リ七時頃ヨリ雷雨ト化シ、全身雨ニ濡ル。午後十一時頃
ヨリ雷雨益々甚ダシク、一寸先ヲ通視スルヲ得ズ。爲ニ行進方向ヲ誤ルコト二回、而シテ後半夜ニ至リ雷雨
漸次止ミ、午前四時三十分漸ク目的地(人質小屋)附近千五百米ノ地點ニ到着、小隊ハ約三十分間休憩ス此
ノ間朝食(乾パン一食)ヲ終リ銃ノ手入ヲ爲シ、再ビ武裝ヲ正シテ前進ス。而シテ休憩中小隊長ノ與ヘシ注意
事項(「イ」前進間一言モ發シテハナラナイ「ロ」良ク分隊長ノ記號ニ依リ動作セヨ)ヲ兵良ク嚴守セリ。愈々
山寨附近ニ近ク、捕虜匪ハ「モウ僅カナリ」又「監視匪ハ彼ノ地點ニ何時モ出テ居ルカラ此方カラ行ケバ良
イ」ト言ヘリ。眼鏡ヲ取り出シテ見ルモ人影見エズ。靜カニ一歩一歩ト近ヅク。連日連夜ノ雨ノ爲ニ匪賊ハ
監視兵ヲ出シアラズ。

好機逸ス可カラズトナシ、逐次ニ左記要圖ノ隊勢ニ移ル、一名ノ匪ハ庭先ヲ何事カ「ウロ・ウロ」シアルモ

0546

彼我戦闘要圖
 大正六年六月六日午前六時



南獲品
 小銃 一五
 拳銃 一
 遺棄死體 六
 人質遺棄 二

備考
 ×印 遺棄死體
 人質ノ言ニヨリト
 十二、三名居リタル
 トノコト

(イ) 諸準備完了位置、人
 質小屋ヨリ約五百米
 地點
 (ロ) 偽 裝

(ニ)(ハ) 前進順序 ① 輕機 ② 第一分隊 ③ 第二分隊 ④ 第三分隊ノ順序
 射撃開始時機ハ輕機射撃開始ト同時トス

我ヲ發見セズ。豫定ノ合圖ニテIG射
 撃開始、續イテ小銃(照準點入口)
 射撃ヲ開始ス。

匪ハ急襲サレテ狼狽シ、後方ノ窓
 ヨリ逃走スルモノ、入口ヨリ逃グ出
 サントシテ斃レルモノアリテ、殆ン
 ド之ヲ殲滅セリ。
 之不眠不休、全身濡レ泥濘膝ヲ没
 スル山路ヲ、堅忍不拔、困苦缺乏ニ
 耐ヘ、且兵良ク小隊長ノ注意ヲ守リ
 企圖ノ秘匿ニ努メタル結果ナリ。

0547

(別記)

編成裝備

人員 小隊長以下 二十二名 (四ヶ分隊編成)

裝備 小銃 十八挺 輕機關銃 一

彈藥 小銃 六十發 輕機關銃 三百六十發

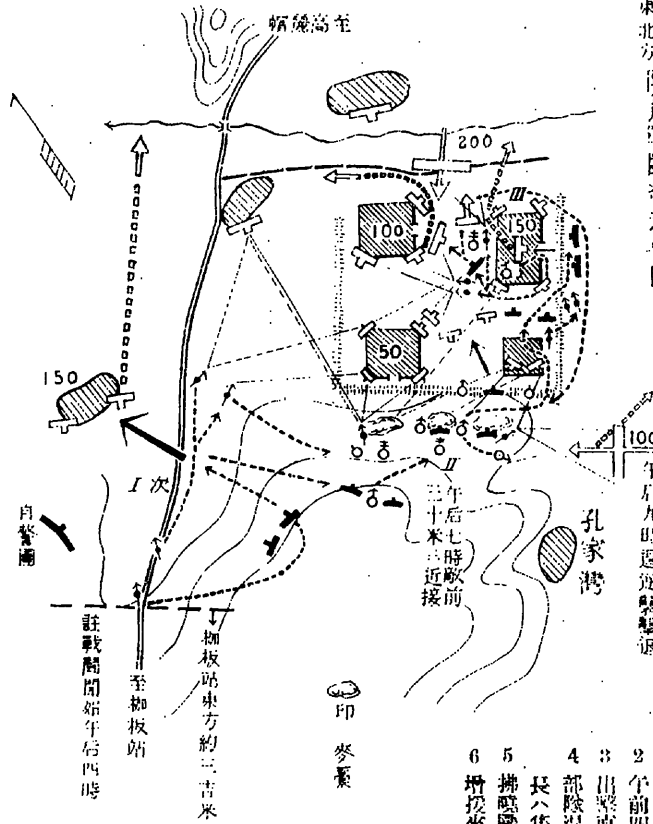
一、機關銃精神ヲ發揚シ衆敵ヲ殆ンド殲滅シタル戰例

昭和十一年八月二十六、七日下枝部隊、市村部隊、杉本隊ノ濱江省寶縣柳板站東方四軒ニ於ケル孔家灣東北附近ノ戰鬪ニ於テ、機關銃分隊長タル藤原軍曹、寺本伍長ハ要圖ニ示ス拂曉戰鬪ニ際シ、戰鬪混亂シ、且敵ノ包圍下ニアリテ、常ニMG精神ヲ發揮シ、雲霞ノ如キ匪團ニ對シ猛射ヲ浴セツツアリシガ、銃手(1234)殆ンド戰死シ、兩分隊トモ分隊長ノミトナレルモ、沈着剛膽ナル兩下士官ハ單獨射撃、以テ友軍ノ危急ヲ援ヘリ。(當時中隊長命令ニ基キ部隊ハ一地ニ集結中ナリ)

即チ寺本伍長ハ敵前二、三〇米附近ニ於テ單獨奮闘シアリシモ、左手ニ匪ノ一彈ヲ受ケ、(小銃連絡兵目撃)MG射撃中止セルヲ見レバ、尙片手ヲ以テ任務續行、敵ノ猛襲ヲ一時停止セシメタリ。然ルニ憎ムベキ匪ノ一

0548

孔家灣附近戰鬥經過要圖



午後九時過逆襲退

- 1 午前二時頃古領
- 2 午前四時出撃ス
- 3 出撃直後東方ヨリ逆襲軍ヲ來ス
- 4 部隊混亂ニ陥リタルヲ以テ中隊長ハ集合ヲ命ズ
- 5 拂曉戰鬥中隊長戰死ス
- 6 増援來齊午後二時

四

彈ハ伍長ノ頭部ニ命中、遂ニ銃ト死ヲ共ニス。

藤原軍曹亦銃側銃手戰死後、寺本伍長同様奮闘シアリシモ、之亦腰部

右腕ニ各々命中、射撃ヲ繼續不能トナルヤ、(當時二、三〇米ニ在リ)迅速ニ銃ヲ分解、活塞ヲ脱シテ後退中

之亦愛スル我が銃ト死ヲ共ニセリ。

垣見曹長ハ又夜襲ニ際シ、匪ノ家屋突撃ニ方リ、城壁ノ破壊不可能ナルヲ知ルヤ、一部城内ニ飛入り、開

0549

門セント決シ、自ら人梯ヲ利用シテ城壁上ニ上リ、之ニ續キテ某上等兵來リテ同時ニ城内ニ飛入りタルニ、暗申匪ノ暗射チノ一彈ハ上等兵ノ腹部ニ命中セリ。彼ハ一時倒レタルモ、責任ノ重大ヲ感ジタルニヤ再び起キ上リ、兩名共力シテ開門ニ努メ、以テ友軍ノ突入ヲ容易ナラシメ、同家屋ヲ完全ニ占領セシメ得タリ。

兩名共突入後間モナクシテ死セルモ、其ノ責任觀念ノ旺盛ナルハ以テ範トスルニ足ル。

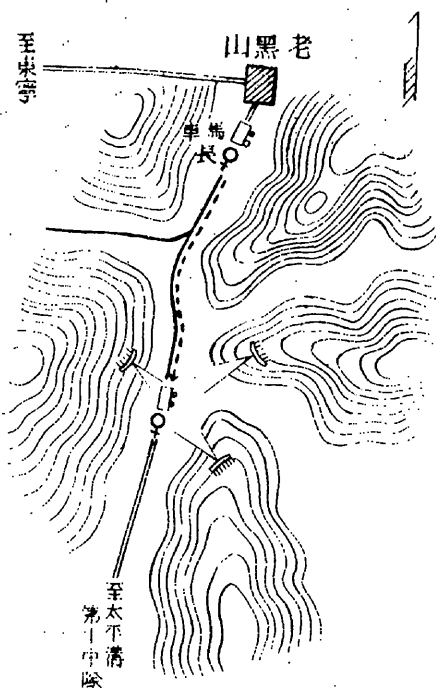
尙又前記戦闘中、夜ニ入りテ月沒セントスル時、部隊ノ右側方面近ク、多數匪ノ我ニ向ヒ攻撃シ來ルヲ察知シ、之ヲMG分隊ニ進言セルニ、分隊長ハ敵ヲ至近ノ距離ニ寄せ付ケ、自己分隊ノミナラズ、出來ル限りノ多數ノ火器ヲ以テ之ヲ撃滅スベク直ニ小隊長ニ進言シ、LMG二ト共ニ前方二、三〇米ニ敵ノ前進スルヲ待チテ急襲射撃ヲ實施、以テ一擧ニ四、五〇ノ敵ニ殆ンド全滅的ノ打撃ヲ與ヘ、之ヲ潰走セシメタリ。

三、一死以テ軍ノ機密保持ヲ完ウセシ戦例

昭和十一年九月六日ヨリ十一月十日迄、師團秋期大討伐ニ於テ、第三大隊ハ概ネ示サレタル地區ニ分散配置ヲ取リ、討匪ヲ行フ。九月六日各中隊ヨリ差出セル先遣一ケ小隊ハ、示サレタル駐屯地ニ向ケ出發シ、爾後中隊主力モ出動シ、後合シテ討匪ヲ行ヘリ。

十二月二十五日、附近ノ治安モ大部片付キタルヲ以テ、第三大隊ハ二十八日各駐屯地中隊ノ一ケ小隊ヲ殘

老黑山附近地形要圖



六

置シ、主力ハ引上グベキ聯隊命令ヲ受ク。

第十中隊ノ工野上等兵以下八名ヨリ成ル一

ケ分隊ハ、殘留小隊ノ分隊トシテ糧秣及被

服受領ノ爲、大隊本部老黑山ニ馬車二十臺

ヲ以テ來ル。老黑山ニ泊後、二十八日所

要ノ糧秣及被服ヲ受領シ歸途ニツク。老黑

山ヲ離ルル二十軒ノ地點(太平溝道)ニ達ス

ルヤ、共產匪ヨリナル七十名ノ襲撃ヲ受ケ

タリ。直ニ應戦セシモ、三方ノ山ヨリスル

射撃如何トモシ難ク、馬車ヲ捨テテ攻勢ニ

轉ズルコト能ハズ。時ニ馬夫ハ全部四散シ、分隊長ハ防戦之努メタルモ、多勢ニ無勢、地形ノ不利ヨリ兵ハ
 逐次損傷シ又戦死ス。分隊ハ攜帶セル彈藥ヲ全部射盡シ、防戦ニ勉ムルノ間、身ニ數彈ヲ受ケシモ、尙屈セ
 ズ、奮闘遂ニ部下全部ヲ損スルニ至ル。分隊長ハ出發ノ際ニ大隊長ヨリ受領セル作戰命令ヲ判讀セシメザル
 迄ニ破リ、體ノ下ニ敷キテ戦死セリ。

0551

糧秣被服、其ノ他掠奪セラルルノ止ムナキニ至リシモ、重傷ノ間完全ニ軍ノ企圖ヲ秘シ、危急ノ間此ノ處置ヲ爲シタルハ、實ニ軍人精神ノ發露ニシテ、衆ノ範トスルニ足ル。

四ノ一、一死以テ警戒ノ任ヲ完ウセシ戰例

昭和十一年六月某日、撫順縣下下達營附近ノ戰鬪ニ於テ、後方警戒ニ任ジアリシ神戶上等兵ノ指揮スル分隊ガ、山上ヨリ約二十餘名ノ匪團ニ急襲ヲ受ケタル際、同分隊長ハ奮然之ニ射撃ヲ敢行シツツアリシモ、敵ノ襲撃急ニシテ、距離約五十餘米トナルヤ、分隊内ノ一兵ハ長ノ奮戦スル様ヲ見ナガラ遂ニ後退シ、同分隊長ハ一人ニテ奮戦、遂ニ名譽ノ戦死ヲ遂ゲタリ。後退セル兵ハ平素ヨリ意志身體共ニ虛弱ナル者ナリキ。

四ノ二、自己ノ負傷ヲ秘シ敵匪ノ夜襲ヲ

阻止シ爾後ノ戰鬪ヲ有利ナラシメタル戰例

昭和十二年三月某日、興京縣下灣子附近ヲ掃蕩シ、同日當所ニ於テ中隊ハ宿營スルニ決ス。其ノ前日三日間ヲ通ジ該地附近ノ敵匪ニ四回打擊ヲ與ヘタリ。

疲勞セル中隊ハ、午後六時宿舍ニ入ルト同時ニ夕食ヲ準備シ、午後八時寢ニ就ク。

時ヲ同ジウシテ衛兵所附近ニ銃聲數發、續イテ宿舍ノ四周ヨリ同時ニ銃聲起レリト見ルヤ、表門歩哨負傷

ス。衛兵司令タル上等兵ハ、直ニ控兵ヲ整備ニ就カシムルト同時ニ、至極勇敢ニ部下ヲ指揮シ、中隊ヲシテ、
戦闘準備ヲ整ヘシムル迄抵抗ヲ續行ス。

中隊配備ニ就イテ、小隊長司令ノ許ニ到リ、始メテ足部ニ貫通銃創ヲ受ケアリシヲ知レリ。司令タリシ上
等兵曰ク、「部下ノ士氣ノ沮喪センコトヲ虞レシヲ以テ我ガ負傷ヲ秘セリ」ト。

五、決死兵二名ノ勇敢ナル行動ニ依リ

匪賊ヲ殆ント殲滅スルヲ得タル戦例

昭和十一年四月二十五日鐵嶺ニ於テ編成ヲ完結シタル獨立守備大隊ハ五月一日、大隊守備區域タル拉濱線
警備ノ爲、大隊本部及第一中隊ヲ五常ニ、第二中隊ヲ拉林ニ移駐ス。當時ニ於ケル附近ノ匪情ニ就イテハ、
部落民（住民）ノ言ニ依レバ、多數ヨリ成ル匪團ヲシキモノハ無ケレ共、五、六名ヨリ成ル匪賊ハ度々影ヲ
現ハスコトアリトノ程度ナリ。未ダ編成竝ニ移駐日淺キ五月十六日、拉林東方約二十軒、會龍山附近ニ匪首
不明ノ匪賊約百四・五十餘名侵入セシトノ情報ヲ拉林警察署ヨリ通報アリ。依ツテ大隊ハ一部ヲ以テ同匪賊
ヲ討伐スルニ決シ、主力ハ第二中隊ヲ基幹トシ、夫レニ第一中隊ヨリ大隊砲一分隊ヲ配屬、其ノ他警察及自
衛團等ヲ合セルヲ某中佐指揮（討伐隊長）シ、十九日午前六時、自動車ニ依リ拉林出發、會龍山西側約六軒

0553

無名部落ニ下車シ、警察(滿警)竝ニ自衛團ヲ集合セシメ、討伐ニ關スル命令及指示等ヲ爲シ、午前十時ヨリ會龍山ヲ包圍スル如ク態勢ヲ整へ、攻撃ヲ開始ス、部隊概ネ會龍山ニ到着スルモ何等匪影ヲ認メズ。討伐隊ハ山上ニ於テ一同晝食ヲナシ、附近ノ山寨ヲ搜索セシニ、五六ヶ所ヲ發見ス。依ツテ之ヲ燒却シ、午後三時頃下山ノ途ニツカントセシ時、會龍山南側高地ヨリ小銃彈數十發我ニ飛來ス。討伐隊ハ此ノ敵ヲ求メテ攻撃ヲ開始、約一時間三十分位ノ交戦後敵ヲ擊退シ、同夜ハ山中ニ露營シ、匪賊ノ搜索ニ任ゼシモ何等獲ルコトナキヲ以テ、二十日討伐隊ノ編成ヲ解キ、各々兵舎ニ歸隊ス。時ニ二十日午前十一時頃ナリ。

(第二日) 五月二十二日午前五時頃、再ビ拉林警察署ヨリ電話ヲ以テ左ノ匪情ヲ通報シ來ル。

「午前四時頃、約七・八十名位ノ匪賊拉林南方約十軒ノ營城子(部落名)南側ヲ、拉林川左岸ニ沿ヒ土城子方向ニ向ヒ前進中ナリ。」

中隊長ハ、一昨日ノ會龍山附近ノ戰鬥ニ破レタル敵ガ、丸山(山ノ名忘レタルニ付)方面ニ移動スルモノト判斷シ、中隊全員ノ非常召集ヲ行ヒ、約三十分ニテ營庭ニ集合ヲ了ス。(彈藥及携帶口糧等ノ分配等ノ時間ヲ含ム) 其ノ際非常召集ノ場合ノ兵ニ對スル指示ハ次ノ如シ。「服裝、携行品及編成ハ一昨日ノ討伐ノ時ニ同シ」整列迅速ニシテ整然ト出發準備ヲ終ル。

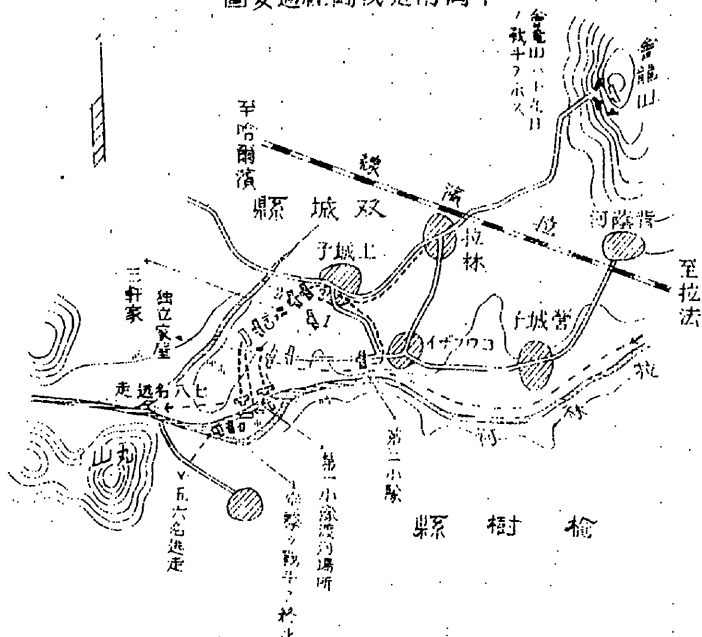
先ヅ中隊長ハ、第一小隊長タル某少尉ノ指揮スル小銃二、輕機一、重擲一ヲ以テスル一小隊ヲ、中隊主力

ノ前進ニ先ダチテ、敵ノ通過ヲ豫想スル土城子（拉林西南方約六軒）ニ向ヒ急進シ、匪賊ノ進路ヲ遮断スルヲ命ズ。主力モ續イテ午前五時四十分頃前進ヲ起シ、途中何等ノ異狀ナク、午前七時土城子ニ到着シ、部落民ニ匪情ニ關シ發見セシコトナキヤヲ調査セシニ、何等知ラザル旨答ヘタリ。

中隊ハ土城子ニ位置シ、先ヅ附近ノ部落及拉林河無住地帯ヲ搜索スルニ決シ、下士官以下五名ノ斥候二組ト、滿人ノ密偵二人一組ノモノヲ三組、各所ニ派遣シ、約一時間三十分位搜索セシモ、何等匪情ニ關シ獲ルトコロ無シ。

然シナガラ、午前四時頃ニ營城子南側ヲ通過シタルハ確實ナルヲ以テ、更ニ土城子西方約三軒附近ニ二三ノ家屋アルヲ見、若シ家屋附近ニ於テ朝食中ナラズヤト情況ヲ判断シ、出發ニ先ダチ、第三小隊ノ小銃一、輕機一分隊ヲ小隊長タル某曹長ニ指揮セシメ、土城子南方約二軒五百ノ「コウフザイ」ニ出シ、若シ中隊ガ三軒家附近ニ行動スルヲ匪賊發見セバ、「コウフザイ」方向ニ移動スルモノト地形上ノ判断ヲナシ、拉林河ト「コウフザイ」ノ部落ノ間、約三百米位ニシテ、匪賊ノ通過スベキ地點ハ此ノ外ナキヲ以テ、第三小隊ハ同地附近ニ位置シ、主力ノ攻撃ヲ受ケタル場合ニ於ケル敵ノ退路ナルヲ以テ、此處ニ分進セシム。時概ネ午前九時三十分頃ナリ。中隊ハ荒地ヲ疎開ノ態勢ヲ以テ、右第二小隊、左第一小隊、第三小隊ノ殘部、及機關銃一、大隊砲分隊一ハ第二小隊ノ後方ヲ前進シツツ、目的地ニ到着スルモ何等敵ニ關シ異狀ヲ認メザリシガ、

圖要過經闘戦近附崗下



其ノ家屋ノ土民ニ尋ネシニ、前方一
 軒八百ニ在ル獨立家屋ニ、午前八時
 三十分頃匪賊ラシキ者二・三十名位
 侵入シ、其ノ後ノ情況不明ナリト申
 立テタルニ依リ、中隊長ハ、匪賊ハ
 朝食シテ休憩シアルモノト判断ノ上
 大隊砲分隊ニ射撃開始ヲ命ジ、五六
 發獨立家屋ニ射撃ヲナシタルモ、何
 等匪賊ノ居ル様子ナク、更ニ前ト同
 シ隊形ヲ以テ、獨立家屋ヲ目標ニ前
 進ヲ開始ス。(但シ第一小隊ハ遠ク右
 ニ迂回シ獨立家屋南側ニ進出スル如
 ク) 斯クテ中隊主力ガ約七百米位
 ノ位置ニ達シタル際、不意ニ約二十

0556

米位ノ所ヨリ拳銃ノ射撃ヲ受ケ、第二小隊ノ輕機分隊長共ノ場ニ即死スルヤ、各所ヨリ小銃彈飛來スルモ地形ノ關係ト、殊ニ附近ニ帶雜草繁茂シアル爲、匪賊ノ位置全然不明ナリ。然シ其ノ距離ハ百五・六十米位ナルコト明瞭ナリ。中隊ハ地形ノ利、竝ニ隊形ノ選擇ニ注意シツツ攻撃前進ス。其ノ間匪賊六・七名ヲ發見シ第一小隊ハ之ヲ射撃シ、其ノ匪賊ヲ其ノ場ニ射殺セリ。又第一小隊正面ハ、前進ニ前進ヲ重ネ、獨立家屋ノ線ニ進出シ、退却スル敵ヲ射撃中ニシテ、中隊主力モ第一小隊ノ戰鬥ノ進捗ニ伴ヒ、逐次第一小隊ノ右ニ連繫スル如ク獨立家屋ノ線ニ進出ス。此ノ時匪賊ノ約五・六名宛ノ一組トナリ、數組拉林河ニ向ツテ退却スル有様ヲ發見スルヤ、速カニ追撃シ、匪賊ヲシテ一名タリトモ渡河ヲナスコトヲ得セシメズ、拉林河ニ壓倒殲滅セントシテ前進ヲ開始シ、途中數彈ヲ受ケツツモ何等ノ損害ナク、三・四名ノ匪賊ヲ射殺シ、拉林河左岸ニ到着ス。時ニ午後四時頃トナリ、匪賊ハ左岸ニ繫留シアリシ四・五名乗ノ木舟二隻ニ依リ渡河ヲ決行セシモノラシク、右岸ニ二隻ノ舟アルヲ發見ス。又舟ニ乗り遅レタル者ハ泳ギテ渡河シ、途中ニ於テ溺死セシ者モ若干アリタル模様ナリ。尙一部ハ左岸地區ニ沿ヒ下流ニ脱出シタル者モアリ。中洲ニ上陸シタル匪賊約二十五・六名位ニシテ、中隊拉林河ノ線ニ進出スルヤ、匪賊ハ益々猛射ヲナシ、我ガ行動ヲ妨害ス。其ノ時兵一名及自衛團員一名負傷セリ。中隊ハ機關銃、歩兵砲ヲ以テ、匪賊ノ蟄集スル地物ニ對シ猛射ヲナシ、其ノ爲ニ敵ノ射撃漸次衰へタルヲ見ルヤ、中隊長ハ第一小隊ヲ中洲ニ渡河セシムルニ決シタルモ、拉林河ハ幅約百

0557

米ニシテ水深二米位、其ノ上水流早ク、歩兵ノ徒渉困難ナル狀況ナリ。此ノ時兵二名決死隊トナリ、匪賊ガ渡河ノ際ニ使用シタル木舟二隻對岸ニ繫留シアルニ氣付キ、自ラ進ンデ揮一ツニナリ、五月トハ雖モ未ダ水冷キ拉林河ニ跳ビ込ミ、泳ギテ其ノ舟ヲ持チ來リタルニ依リ、第一小隊ハ敵彈飛來スル中ヲ逐次渡河ヲ決行ス。其ノ際第二小隊ハ掩護ニ任ズ。中隊長モ續イテ渡河ヲ決行、第一小隊ヲ以テ殘敵ヲ掃蕩ノ爲、中洲北端ニ壓迫スル如ク攻撃ス。敵モ必死トナリテ我ニ應戦スルモ、之ニ届スルコトナク敵前三十米ニ迫リ、將ニ突入セントセシ際、又兵一名名譽ノ戰死ヲナス。

尙第一小隊ノ連絡ノ爲ニ、第一小隊ヨリ出サレタル傳令ハ、泳ギテ渡河シ、任務ヲ達セントセシトキ、敵彈ノ爲之亦河岸ニ於テ戰死ス。

第一小隊ハ薄暮ヲ利用シ、七・八名ノ逃走者ヲ出ス外、敵ニ突入シテ完全ニ匪賊ヲ擊滅ス。此ノ時概ネ午後七時三十分頃ナリ。中隊ハ集結シ亡キ戰友三名ヲ運ビツツ、一同土城子ニ歸還ス。

以上ノ如ク匪賊ヲ殆ンド殲滅スルヲ得タルハ、一ニ決死兵二名ノ勇敢ナル動作ニ依ルモノト云フヲ得ベシ。

六、一兵ノ機宜ニ適シタル獨斷

克ク戰鬪ヲ有利ナラシメタル戰例

昭和九年田村部隊渡滿直後、前部隊飯塚部隊分屯小隊ト交代ノ爲、四月二十九日馬車三十臺（午前四時佳木斯出發）トラツク六輛（午前七時出發）ニ分乘シ（歩兵二小（馬車）歩兵一小MG二、IA一、トラツク）永豊鎮ニ向フ。途中三江省横道河子中間ニ於テ正午トナリ晝食。（此ノ時馬車部隊ハ、トラツク部隊ノ前方一、〇〇米ニ在リ）

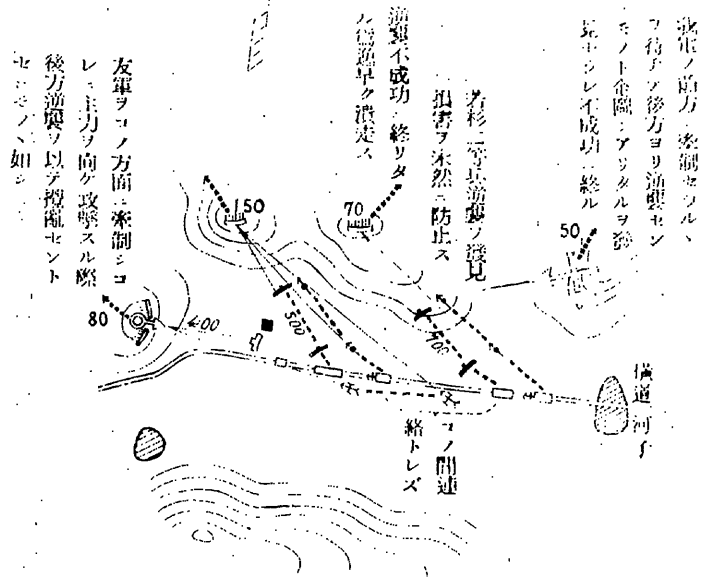
部落前方側方ノ高地上ニ二・三名ノ人影ヲ見ル。部落住民ニ情報ヲ尋ネタルニ匪情ナシ。渡滿直後ナルヲ以テ匪賊ニ關スル情報未ダ審ナラズ。

突如トシテ前方側方ノ高地ヨリ猛射ヲ受ケ、忽チニシテ數名負傷ス。スハトバカリ、戰鬪準備ヲ整ヘテ之ニ應戦セルモ、敵ハ地ノ利ヲ占メタル上ニ堅固ナル掩體ヲ設ケ、之ニ據リテ頑強ニ抵抗シ、戰鬪意ノ如ク進捗セズ。

右火線分隊ノ右翼ニシテ凹地ニ居タル若杉二等兵ハ、斜右ノ白樺ノ根本ニ「チラ」ト人影ヲ認メタルヲ以テ、良ク注意シテ見タルニ、白樺ノ枝ニテ偽装シタル約四十名ノ敵一隊アルヲ知ル。「テツキリ逆襲」ト判斷セシ彼ハ、左後方ニ位置スル分隊長ニ報告スルノ暇ナク、獨斷ヲ以テ右後方ニ在ル小隊長ニ直ニ報告シテ曰

0559

關峯陣戰



ク、「地形上第一分隊ノ射撃ハ不可
能デスカラ第三分隊ニテ制壓シテ下
サイ」ト。

此ノ報告ハ突撃部署ト其ノ實行ヲ
最モ適切有利ナラシメタリ。

獨斷ト言ヘバ何トナク幹部ニ限レ
ル事ノ如ク考ヘラレ勝チナレ共、此
ノ如キハ機宜ニ適シタル立派ナル獨
斷ニシテ、而モ其ノ結果ニ於テ眞ニ
戦闘ヲ有利ナラシメタリ。

車輛討伐ニ在リテハ特ニ警戒ヲ嚴ニ
シ且連絡ヲ密ニスルヲ要ス
陸路通過ニ於テ襲撃サレタル陸軍輜
へ最モ多ク損害ヲ蒙ル

0560

七、馭兵獨斷彈藥ヲ補充シ戰勝ノ端緒ヲ開キタル戰例

一六

敵（反滿撲軍）ハ、旬日前ヨリ齊克線（現在ノ齊克線）及電話線ヲ破壞シ、克山——泰安間ノ連絡ヲ遮斷シ、泰安守備隊（第十一中隊ノ一小隊缺）ヲ各個擊破スベク包圍中ナリ。

當時克山ニ在リシ歩兵第五十九聯隊（第一・三大隊ニ一小隊缺、第五中隊缺、野砲一小隊附ス）ハ、「イ」部落附近ニ陣地ヲ占領セル敵ヲ攻撃シ、泰安守備隊ヲ救援スベク、十月二十一日午前七時〇分克山ヲ出發シ、克山——古城——泰安道ヲ泰東ニ向ヒ、途中敵ノ警戒部隊ヲ驅逐シツツ、十月二十三日午後二時「ロ」部落ニ前進ス。

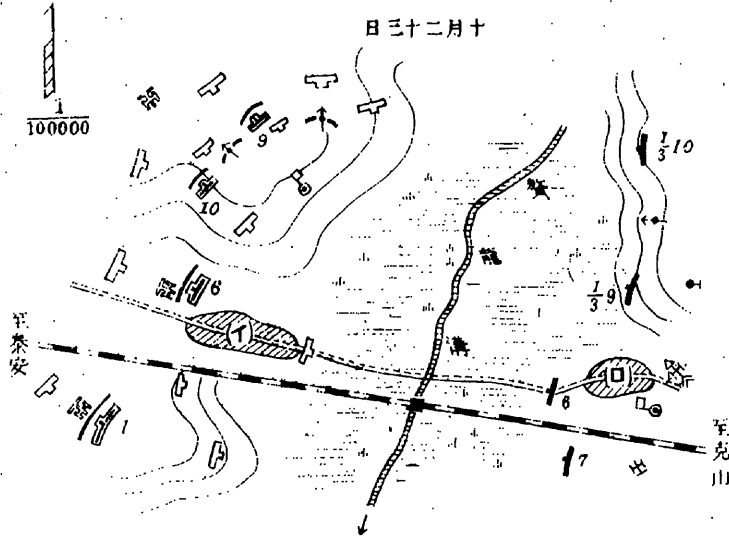
此ノ時ニ於ケル攻撃部署竝ニ戰鬪經過別紙要圖ノ如シ。

歩兵第五十九聯隊第二機關銃中隊、歩兵一等兵柴田右一ハ、鈴木小隊ノ彈藥馬馭兵トシテ參加ヲ命ゼラル。當時第二小隊（鈴木小隊）ハ聯隊ノ豫備隊トシテ第二線トナリ、馭馬ハ濕地通過不能ノ爲、馭馬及一部ノ彈藥ヲ「ロ」部落ニ殘置シ、贅龍溝濕地ヲ卸下通過シ、「イ」部落北側丘阜ニ進出スルヤ、右側面ヨリ敵ノ逆襲ヲ受ケ、聯隊本部ノ危機共ノ極ニ達シツツ日ハ西山ニ没シ、敵前百四、五十米ニシテ對陣、夜ヲ徹スルノ止ムナキニ至レリ。

0561

圖要道經關戰進附安秦

日三十二月十



時既に殘彈(故障彈)二十九發ノミ。咫尺ヲ辨ゼザル
 暗夜何等ノ基準トナル目標ナキ平原、(口)部落ニ補充
 ノ爲兵ヲ派遣セバ必ズヤ方向ヲ誤リ、徒ラニ銃側ノ兵
 カヲ減少ナラシムルノミ。小隊長ハ如何ニシテ、補充ス
 ベキヤニ腐心シ、任務ノ重且大ナルヲ痛感シツツ、悲
 壯ナル覺悟ヲ以テ天明ヲ待ツ。彈藥馬馭兵タル柴田一
 等兵ハ自己彈藥馬ヲ銃馬馭兵ニ依頼シ、(口)部落ヨリ
 獨斷四千米ノ大濕地ヲ通過シ、黎明直前迄ニ彈藥二箱
 ヲ持チ來レリ。

其ノ苦心タルヤ想像ニ餘リアリ。濕地ハ腰ヲ沒スル
 ノ深サナル爲、一箱ヲ背負ヒ、一箱ヲ泥土上ヲ滑ラシ、
 殆ンド匍匐シテ進マザルベカラズ。然

備考

西第二次
 モ暗夜何等ノ基準トナル目標ナク、四
 千米ノ濕地通過ニ要スル時間、實ニ五

0562

時間ノ長キニ及ベリ。一等兵ノ身ヲ以テ戦況地形ヲ判断シ、克ク獨斷補充シ、當時慘烈其ノ極ニ達シタル戦
闘中ニ我ガ隊ノ危急ヲ救ヒ、良ク戦機ヲ看破シテ機宜ニ適シタル行爲ヲナシ、爾後ニ於ケル我ガ部隊ノ戦闘
ヲ有利ニ進展セシメタル行爲ハ、眞ニ軍人ノ龜鑑トスルニ足ル。

八、兵器ノ尊重愛護心ニ徹底セル實例

歩兵第六十八聯隊第十中隊、陸軍歩兵一等兵某ハ、昭和十二年七月十三日、滿山縣南天門附近ノ討伐中、
當時四・五日來降雨シテ各河川氾濫シ、加フルニ討伐行動地區ハ錯雜シテ、且雜草繁茂シアリタリ。一等兵
ハ常ニ小隊長ノ前ニ前ニト前進ス。小隊長「後方ヨリ」ト命ジタルモ、小隊長ノ身ヲ案ジ、先頭ニ立チテ道
路ヲ作リツツ前進シ、午後五時大石道河ノ左岸ニ到着ス。當川ハ地圖上ニ於テハ小川ノ如ク記入シアリテ、
幅三米内外ニ判断セルモ、降雨ノ爲幅約五十米トナリ、濁流渦卷キテ流レ居タリ。中隊長ハ、右岸ニ渡河シ
小石頭河子分駐所ニ前進スルニ決シ、第一小隊第一分隊長ニ渡涉地點ノ搜索ヲ命ジタルニ、一等兵眞先ニ分
隊長ノ傳令トシテ志願シ、分隊長ト共ニ搜索ヲ開始セリ。平時ノ水深ヲ考慮シ、水深約一米五十内外ト判断
シ、彼方此方ト淺瀬ヲ調査中、突如足ヲ取ラレテ濁流ニ卷キ込マレ、武裝ノ儘水中ニ流サレ姿見エザルニ至
ル。分隊長之ヲ救助スベク、自ラ水中ニ流サレツツ努力セシニ、約三十秒後濁流ノ河面ニ僅カナガラ銃ノ尖

0563

端現ハレタリ。之ヲ手懸リニ救助ニ努メタリシガ、益々下流ニ流サレテ容易ニ救ヒ上ゲラレズ。然シナガラ分隊長及中隊ノ兵ノ必死ノ努力ノ甲斐アリテ遂ニ彼ノ銃尖ヲ取リテ引上ゲ、全身濁水ニ浸リナガラ猶堅ク銃ヲ握リタル彼ノ姿ヲ岸ニ見ルコトヲ得タリ。

中隊長此ノ姿ヲ見、武装ヲ解カセナガラ大聲ニテ、「某、銃ヲ放セ〜」ト、呼ビタルモ答ナシ。銃ヲ取ラントスレド中々取レズ。彼ガ人事不省中ニモシツカリ銃ヲ握リシメ居ルガ故ナリ。

暫クノ後、手當ノ效アリテ元ノ元氣ナル状態ニ反ルヤ、彼ハ「分隊長殿、渡ル所ハ」ト問ヒ、死ストモ尙放タジト捧ゲタル銃ヲ執テ毅然ト立チ上リタリ。中隊長之ヲ見テ深く其ノ精神ヲ稱揚セリ。

敵ノ掠奪ニ對シ一死以テ兵器ヲ守リタル實例

昭和十一年四月、吉林省額穆縣額穆索ニ移駐セル鹽野部隊ハ、必要ナル糧秣被服等ヲ京崗線秋梨溝ヨリ馬車ニヨリ補給中ナリ。昭和十一年八月、被服輸送ノ馬車護衛ニ任ジタル鹽野部隊ノ渡邊上等兵以下〇名ハ、秋梨溝ヨリ離ル約十軒、牡丹崗ヲ通過中、不意ニ匪襲ヲ受ケ直ニ應戦セルモ、匪賊ハ地形ヲ利用シ、狙撃ヲ以テ對抗シ、遂ニ渡邊上等兵以下四名ハ敵彈ニ斃ルルニ至レリ。之ヲ見タル匪賊ハ猶モ猛烈ニ射撃シツツ次第ニ戦死者ニ近寄り、其ノ兵器ヲ掠奪シテ逃走セリ。

此ノ中ニアリシ今井上等兵ハ、歩兵銃ヲ堅ク兩腕ニ抱キテ離サズ。匪賊ハ尙モ之ヲ奪ハントシテ、或ハ打チ或ハ蹴リ、銃劍ヲ以テ身體至ル所ヲ突キ刺セドモ彼ハ嚴トシテ離サズ。應テ應援ヲ得タル友軍ノ爲ニ匪賊ハ逃走シ、彼ハ遂ニ死ヲ以テ銃ヲ守リ得タリ。

九、身ニ重傷ヲ負ヒ乍ラ勇敢ニ

部下ヲ指揮シテ敵ヲ撃退セル戦例

(1) 奉天省東部地區興京、桓仁、通化地區ハ、朝鮮革命軍ノ有力ナル根據地ニシテ、日滿軍警ノ不斷ノ討伐ニヨリ、集團的行動ハ採ラザルモ、地下潜行ニヨリ勢力ノ挽回ニ汲々タルモノアリ。

(2) 獨立守備歩兵第六大隊第一中隊ハ大隊ノ企圖ニ基キ、昭和十一年秋季討伐ノ重點ヲ興京縣西南部ニ指向スル爲、討伐行動開始前當方ノ肅清ヲ企圖シアリタル時、革命軍ノ有力ナル幹部金活石ト稱スルモノ、該地區ニ潜入セルノ確報ヲ得、之ヲ包圍逮捕スベク、昭和十一年十月九日午後六時行動ヲ開始、日滿軍警ヲ併セ指揮シ、目的地ヲ去ル東方約四軒、四道溝ニ於テ該匪團ノ會議中ナルヲ包圍セシガ、日滿軍警ヲ組織セル捜査班ハ、過早ニ攻撃ヲ實施セル爲、匪團ハ退路ヲ索メテ三々伍々、正ニ配備ヲ完了セントシアル小隊ノ正面ニ暴進シ來レリ。渡會小隊長(獨立小隊長ニシテ長以下二十一名、分隊長全部上等兵)ハ

身邊ニアリシ第二分隊ヲ率イテ匪團ノ中ニ突入セリ。混亂セル敵ハ夜暗ノ中ニアリテ至近距離ヨリ射撃セルモノアリ。我が火線ヲ奔馬ノ如ク突破スルモノアリ。此ノ夜戦ノ始ニ於テ、小隊長ハ右足ニ敵彈ノ爲貫通銃創ヲ受ケ、第二分隊長亦右足ニ貫通銃創ヲ受ク。小隊長ノ許ニアリシ一等兵ハ即死、其ノ左後方ニアリシ一等兵ハ重傷ヲ負ヒテ、立ち向フヲ得ザルノ状況ニアリシガ、小隊長ハ負傷ノ儘匍匐、小隊ヲ指揮シ、戦闘三十分餘ニシテ此ノ敵ヲ撃破セリ。

戦闘中、獨立小隊ノ小數兵員ヲ指揮セル長ノ負傷ヲ速カニ洩ラサンカ、小隊ノ士氣ハ萎靡シ、敵ノ乗ズル所トナルヤ明ラカナリ。故ニ小隊長極力之ヲ秘シテ部下ヲ指揮シ、而シテ其ノ任務ヲ完ウセルハ、指揮者ノ模範トスベキナリ。

十、彈丸雨中ノ間率先頭ニ立ちテ 突入シ主力ノ突撃ヲ誘起セシメタル戦例

- (1) 支那事變ノ突發ト共ニ、滿洲國內ニ在ル匪徒モ頓ニ活況ヲ呈スルニ至リ、特ニ共產匪タル抗日第五軍ノ第二連ハ、某國ノ指令ニ基キ、滿洲國特ニ國境線ノ擾亂ヲ企圖シ、事變突發ト共ニ彼ガ根據地タル大楊木背一帶ノ地ニ於テ、連長「北狹」以下七十餘名ハ、抗日侮日思想ヲ附近住民ニ宣傳シ、益々暴威ヲ逞

シウシ、其ノ勢侮リ難キモノアリ。

我ガ軍ノ治安肅正計畫ニ基キ、四獨守ハ恒久の治安ヲ確立スベク、昭和十二年九月當初、各部隊ヲシテ牡丹江省三江省ニ帶ノ討伐ヲ實施ス。〇〇游擊隊ハ主トシテ濱綏線（牡丹江以北）附近ノ討伐ニ任ジ十月二十日午後五時、前述ノ如キ情報ヲ本部ヨリ受領シ、之ガ徹底的討伐ヲ企圖セリ。

(2)

游擊隊ハ二十一日早朝之ヲ奇襲スベク、奎山北方四軒ノ一部落ニ於テ諸準備ヲ整へ、二十日午後十一時三十分大楊木背ニ向ヒテ前進シ、二十一日午前一時五十分、該地西方一軒屋（大楊木背西方二軒）ニ到着ス。

游擊隊長ハ、午前二時三十分ヲ期シ之ヲ攻撃スベク、各部隊ヲ區署シ逐次近接セリ。折柄ノ月明ニ依リテ連長以下七十餘名宿泊中ナルノ確實ナルコト、及匪ノ歩哨ヲモ發見セリ。此ノ時游擊隊長ハ、主力ヲ以テ部落北方ヨリ、一部ヲ以テ西方ヨリ攻撃スベク、一部ヲ殘置シ、敵前百米ヲ迂回シテ、北方五百米ノ地點ニ到着ス。

游擊隊長ノ突入ノ記號ト共ニ、游擊隊主力ハ一舉ニ該部落、特ニ歩哨ノ立哨シアル後方家屋ニ、敵前二十數米迄前進セル際、歩哨ニ發見セラル。該歩哨ハ猛烈ナル射撃ヲ以テ匪團ニ急報セリ。

此ノ際主力ハ、匪ノ突然ノ射撃ニ依リ全部隊舉ゲテ其ノ位置ニ停止セリ。匪ハ此ノ間隙ヲ利用シテ、西

0567

方ニ逃走セント企圖シ、匪首以下家屋外ニ出テ射撃ヲ實施シツツ退却セリ。此ノ時、西方ヨリ攻撃スベク任務ヲ受ケタル一小隊ハ、速ニ其ノ企圖ヲ看破シ、主力ト共ニ突入シ、殲滅的打撃ヲ與ヘタリ。全分隊停止ノ際、第一分隊長タル〇〇軍曹ハ、彈丸雨中ノ間、猛然トシテ率先頭ニ立チ、以テ主力ノ突撃ヲ誘起シ、赫々タル戦果ヲ獲得セリ。

十一、勇敢ナル分隊長ノ行動克ク部下ノ

士氣ヲ振作シ有利ナル戦闘ヲ交ヘタル戦例

- (1) 通化、興京兩縣下ニ跳梁シアリシ匪團ハ、皇軍ノ寧日無キ討伐ニ其ノ蔭ヲ潜メアリ。昭和十年七月二十日以來、通化縣第六區三棵榆樹ニ治標工作ノ爲殘置サレタル高山中隊ノ小隊(小隊長以下四十三名)ハ、其ノ後小康ヲ得アリシガ、八月末ニ至リ逐次匪團ノ活動活潑トナリ、各所ニ出沒スルニ至レリ。九月十八日午前十一時過、三棵榆樹西南方約六軒、秋梨溝ニ紅軍匪約三十餘名食事中ナル情報ヲ得、高山中隊ノ一個小隊ハ之ヲ攻撃スルニ決シ、直ニ行動ヲ開始セリ。
- (2) 小隊ハ、秋梨溝近傍ヨリ報告ニ來リタル農民ヲ案内トシ、退路遮斷ノ爲、警察隊十五名ヲ部落西南方高地ニ派遣シ、小隊ハ問道ヲ經テ秋梨溝東側高地ニ向ヒ急進ス。午後二時三十分頃目的地ニ達シタルニ、

匪團ハ警察隊ヲ發見、北方高粱畑方面ニ退却ヲ開始中ナルヲ以テ、小隊ハ直ニ射撃ヲ開始セリ。然ルニ敵ノ一部ハ左前方家屋土壁内ヨリ、我ガ斜面ニ下降シツツアルヲ射撃シ、爲ニ之ニ近接スルコト困難ナリ。分隊長加藤軍曹ハ、此ノ時單身彈丸ヲ目シテ土壁ニ近迫シ、三個ノ手榴彈ヲ圍壁内ニ投擲シ、敵ノ怯ム隙ヲ利用シ突入セリ。敵ハ此ノ猛攻ニ堪フルヲ得ズ、遂ニ人質四名、死體四ヲ殘シ、遠ク高粱畑内ニ逃走セリ。

(3) 戦闘ニ於ケル參考トナルベキ所見

- (一) 分隊長ノ勇敢ナル行動、能ク兵ヲ鼓舞シ、小隊ノ戦闘ヲ有利ナラシメタリ。
- (二) 警察隊ノ行動暴露的ナル爲、袋ノ鼠ニ等シキ匪團ヲ殲滅シ得ズ、潰走セシメタルニ過ギザリキ。

0569